



立川市立第六小学校 学校だより

# ひまわり



立川市立第六小学校

〒190-0021

東京都立川市羽衣町2-29-22

TEL 042 (523) 5248

FAX 042 (529) 0859

校長 田中光晴

令和7年

5月号



ー「自己教育力」(主体的に学ぶ力)の伸長を目指してー

校長 田中光晴

木々の新緑が色鮮やかに映える季節となっていました。先月はご多用の中、年度初めの保護者会にご来校いただき、有難う御座いました。季節と相まって、学校では、毎日元気な子供たちの声が至る所から響き渡り、躍動感に満ちた学校生活が日々繰り広げられています。子供たちは、入学・進級から約3週間が経ち、それぞれの学年に見合った学習や生活のリズムが定着してきました。入学したばかりの1年生は、先月15日に「1年生を迎える会」、18日から給食も開始され、もうすっかり六小の小学生として学校生活を送っています。毎朝1年生の教室でお世話を頑張る6年生をはじめ、学校全体が1年生を迎え入れようとする優しい雰囲気に包まれています。学校教育目標「思いやりのある子」が、学校生活の様々な場面で感じられた3週間でした。

さて、今ではあまり耳にしない表題にある「自己教育力」という言葉は、1983年(昭和58年)、当時の文部大臣の諮問機関・中央教育審議会がその答申において、今後の学校教育で特に重視すべき視点として示した言葉です。その内容は、「主体的に学ぶ意思、態度、能力」の育成であるとしています。私が教師になる前の話ですが、その後教壇に立った頃を振り返ると、この「自己教育力」という言葉は、当時の学校現場においてもよく耳にしていたことを思い出します。この当時の学校教育への期待は、現在の子供たちに求められている資質・能力〔学力の3要素〕の一つである、③「学びに向かう力・人間性(の涵養)〔主体的に学習に取り組む態度〕」(ちなみに、①「知識・技能(の習得)」、②「思考力・判断力・表現力(の育成)」)に通じているような気がします。40年以上も前の教育改革に係る提言が、今の時代にも求められる価値として色あせぬ在り続けていることに、教育における不易流行を改めて感じます。教育界では、インターネット・テクノロジーの加速度的な発展とともに、学校現場においても、chromebook を活用した子供たち一人一人に合った学びの実現が、より一層求められています。主体的で自律的で探究的な学びの姿勢を、いかに子供たちに身に付けさせるのか、ということが我々教師に課せられた重要な指導姿勢と考えています。年度初めの保護者会でもお話しさせていただきましたが、本年度の本校教職員の校内研究テーマが、子供たちの「主体性」を育むことに重点を置いた指導に関する研究です。どのように指導を工夫していくべきか、どのような環境整備をすれば、子供たちは主体性をもって物事に取り組んでいけるのか。数値化できない子供たちの能力の伸長に、これから学校は日々の教育活動を通じて研究実践に取り組んでいきます。

さあ、これからゴールデンウィークの後半に入ります。お子様の健康・安全には十分ご留意いただき、ご家族で有意義な連休をお過ごしください。「今日は何をして過ごしたい。」「どこへ行って、何を食べたい。」等々、可能ならば、一日くらいはお子様の「主体性」にゆだねた休日を過ごされてみてはいかがでしょうか。



「1年生を迎える会」の様子